

じんせいろうしごう じようきやく 人生老死号の乗客

コロナウイルスの感染者数に一喜一憂しながらも、人流が緩和されたことで、町中や観光地には人出が多く見られるようです。五月の大型連休の時も、乗り物の混雑や帰省地の様子をテレビで見ると、当寺院の旅行も早く再開できればと思います。

ところで、人生というものは、列車で旅をしているようなものではないでしょうか。その列車【人生老死号】は時々刻々、老と死に向かつて走りつづけています。特別料金を払うから、若さに

駅が近くなれば、その日はかならず来るのです。自分が降りる駅に着く日が来ることを、はつきり認識してこそ、この修羅場の多い人生を、よりよく生きることができるとは思います。この終着駅に着いた時、周りの人々にしっかりと挨拶をして降りたいものです。みなさまとともに楽しい旅をさせていただき、ありがとうございます。そう言って降りられるならば、すばらしいものになるでしょう。考えてみますと私たちがこの列車の乗客になれたのは、ご先祖さまたちが降りてくださったからです。先に降りていかれたご先祖を思い、私もまた、この【人生老死号】を降りていきた

いものです。

それにしても、なかなか私たちの人生はうまくいかないことも多く、そう思えないこともあっても、それを見抜いて阿弥陀如来さまは、声の仏さま 南無阿弥陀仏になり私たちの【人生老死号】にすでに乗車してくださっておられます。ほとけさまと一緒に人生、ほとけさまと一緒に旅を楽しんでいきましよう。

コロナ禍以前は、大分県にバス旅行をし、皆様と蓮の花をみて、蓮の食事をしたと思っていました。コロナが終息して、浄尊寺の日帰り旅行が再開できるのを願うばかりです。

(ひろさちや エッセイ 参照)